

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第 131 号

平成 28 年 10 月 1 日発行

発行所 : 旭労災病院

〒488-8885

尾張旭市平字甲北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

H. pylori感染の診断と治療のガイドライン 2016改訂版について

消化器科部長 遠藤 雅行



今回はこの度改訂となった *H. pylori* 感染の診断と治療のガイドラインについてご紹介いたします。

先生方ご存じの通り、2013年より *H. pylori* 感染胃炎への除菌治療に保険適応が拡大されました。この適応拡大により *H. pylori* 除菌人口が急速に増大し、*H. pylori* 菌を撲滅して胃癌予防に結びつける基盤が整ったといえます。

H. pylori 除菌が強く勧められる疾患として大きく *H. pylori* 感染症とまとめられました。その中で除菌が強く勧められる疾患として、*H. pylori* 感染胃炎、胃潰瘍・十二指腸潰瘍、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、胃 MALT リンパ腫、胃過形成性ポリープ、特発性血小板減少性紫斑病などがあげられています。*H. pylori* 除菌により組織学的胃炎が改善し、*H. pylori* 関連疾患の予防に結びつくことが期待されます。すなわち、予防医学的観点からは原則感染者全員が治療対象となり得ることとなります。

感染診断については、内視鏡を用いた迅速ウレアーゼ試験、鏡検法、培養法、内視鏡を用いない尿素呼気試験、抗 *H. pylori* 抗体測定、便中 *H. pylori* 抗原測定を用いて行います。単独で gold standard となる検査がないため、保険診療の縛りはありますが複数の検査法を組み合わせることで感染診断の精度は向上します。

除菌治療についてはプロトンポンプ阻害薬(PPI)もしくはカリウムイオン競合型アシッドブロッカー(P-CAB)+アモキシシリン+クラリスロマイシンもしくはメトロニダゾールの3種類の薬物を7日間投与する三剤併用療法を行います。当院での一次除菌成功率は PPI 使用で 77.2% (402/521)、P-CAB 使用で 94.9% (93/98)であり、除菌成功率の有意な向上が認められました (P<0.001)。

クラリスロマイシン耐性菌の増加により除菌成功率が低下傾向にあるとされていましたが、P-CAB を使用することにより治療効果が向上しています。

除菌治療薬(抗菌薬)の選択については「薬剤感受性試験を行い、最も高い除菌率が期待される組み合わせにすることを推奨する」と記載されましたが、現時点では薬剤感受性試験は保険適応ではなく今後制度が改正されるかどうか注目したいと思います。

【参考】*H. pylori* 感染の診断と治療のガイドライン 2016 改訂版

アレルギー免疫療法 ～舌下免疫療法について～

耳鼻咽喉科部長 加藤 貴重



近年、アレルギー性鼻炎の治療法としてアレルギー免疫療法が注目されています。

アレルギー免疫療法とは・・・

アレルギー疾患の病因アレルゲンを投与することにより、アレルゲンに曝露された場合に引き起こされる関連症状を緩和する治療法です。主に皮下免疫療法と舌下免疫療法があり、従来は皮下免疫療法が中心であったが、近年では注射の痛みや頻回な通院の必要がないこと、副作用発現率が低いため安全性が高いことから『舌下免疫療法』に注目が集まっています。

メリット：根治が期待できる唯一の方法。症状の改善、対症薬物の減量。

デメリット：効果発現に時間がかかる。効果に個人差がある。

アナフィラキシーショックの可能性。施行できない人もいます。 などです。

舌下療法とは・・・

現在『スギ花粉症』『ハウスダスト』について行われています。

治療ができない人：アレルギー性鼻炎の原因が特定できない人。使用薬剤でショックを起こしたことがある人。重度気管支喘息。悪性腫瘍や免疫系の病気のある人。

注意が必要な人：気管支喘息。高齢者。妊婦・授乳中。抜歯後や口腔内損傷で口腔内に傷・炎症のある人。全身性ステロイド薬の投与を受けている人。 などです。

投与方法（スギ花粉の場合）

- ①アレルゲンがスギであることを確認
- ②初回投与は、医師の監視下にて施行
- ③2回目以降は、自宅にて毎日1回継続（最低2～3年程度継続）

増量期：1～2週目は徐々にアレルゲン量を増量

維持期：3週目以降は、一定の量を投与

開始の時期

花粉が飛んでいる時期に開始するとアレルゲンとの接触量が増えることから飛ぶ前に増量期を終わるようにします。...(5月中旬～11月が目安)...

副作用；

主なもの；口腔内咽頭喉頭の搔痒感や腫脹、耳のかゆみ、頭痛 など

重大なもの；ショック・アナフィラキシー

アレルギー免疫療法は、『根治が期待できる唯一の方法』です。現在当院では、舌下免疫療法はスギ花粉のみです。興味のある方は、ぜひご相談ください。

新任医師挨拶

麻酔科部長

いとう たっし
伊藤 立志



9月より勤務致しております、麻酔科の伊藤立志と申します。私は1990年に藤田保健衛生大学を卒業し、初期研修は名古屋第一赤十字病院で行いました。3年目から麻酔科を専攻し、東京の三井記念病院で7年間修業しいったん帰名、母校の保健衛生大学病院で1年間勤務後再度上京、虎の門病院に11年間勤務致しました。5年前に帰名し愛知県がんセンターに1年半勤務、その後厚生労働省の医系技官となり1年間臨床を離れましたが、前勤務先の名古屋市立緑市民病院で臨床に復帰致しました。それまで規模の大きな病院ばかり勤務していた私にとって初めての「地域の病院」で戸惑いもありましたが、特に（超）高齢者医療にやりがいを感じていました。四半世紀前を思い起こしますと麻酔科臨床もずいぶん変わりましたが、これまでの経験も活かし、微力ですがもう少し地域医療に役立ちたいと考えています。よろしくご指導の程お願い申し上げます。

